

ユニフォームのチェックポイント

・縫製

縫製不良の発生原因

< 1 > ミシンの扱いが悪いケース

1 - パッカリング(ちぢれ)



1 - 目飛び



1 - 波打ち



1 - 縫い曲がり



1 - 引きつれ・たぶり



これらの縫製不良の発生原因は、布地に対して、糸・針が適正に使用されていないか、縫い手の技術が未熟であったりすることなどが挙げられる。

購入に際しては、パッカリングと目飛びをチェックすれば、縫製上の欠陥商品を締め出すことができると言える。

< 2 > 手抜きであるケース

2 - カンヌキなしのほころび



2 - ほつれ



2 - ボタン付けの不備
...根巻き・糸止めなしにより糸抜け



2 - 糸くず・残り糸



2 - 左右不均等



購入に際しては、カンヌキの有無をチェックする。
カンヌキが完全な場合は、その他の手抜き現象はないと言える。

・型体

型(かたち) = 基本型 + 装飾性

基本型を無視して装飾性ばかりを追及すると、以下のような現象(原因)が生ずる。

上衣

1)にげ

前丈が長すぎる

ボディに対してパターンの
肩傾斜の角度がありすぎる



2)おがみ

前丈が足りない

ボディに対してパターンの肩傾斜の
角度が無さすぎる



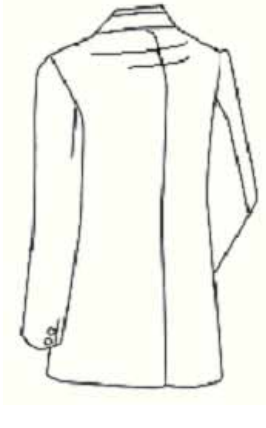
3)えり抜け



ボディに対して、バックネックポイント
の位置が下に下がりすぎている。
また、衿のパターンに原因があるこ
ともある。

4)つきじわ

ボディに対してパターンの
肩傾斜の角度がありすぎる



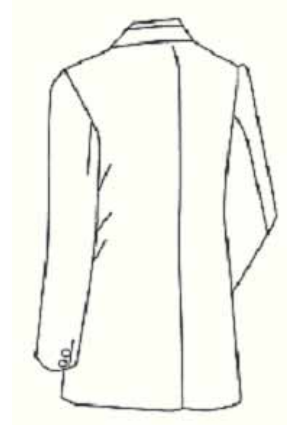
5)たすきじわ

ボディに対してパターンの
肩傾斜の角度が無さすぎる



6)だき・おち

後ろ身頃と脇を縫合する線
の上下ずれにより発生する

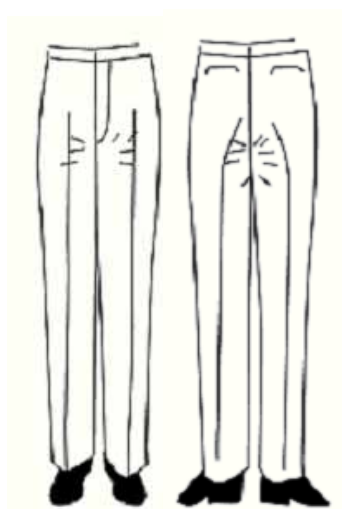


ズボン

7)折り山線にげ
前股上丈が長すぎる



8)前じわ、尻じわ
渡り幅が不足している



スカート

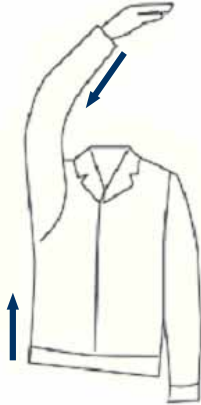
9)脇線傾斜
ボディに対して前後のウエスト
ラインのバランスが悪い



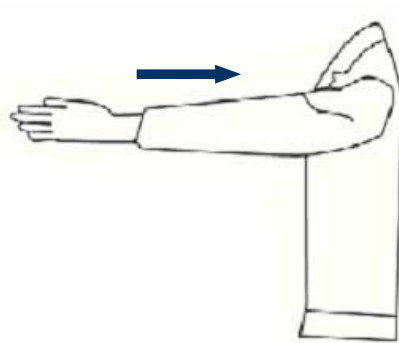
・機能性

機能性に富んだユニフォームには、必要な所に必要な分量の運動量が合理的に入っている。

上衣 腕を上げてみる
裾線の上がり量が13cm 以内
袖口線の下がり量が8cm 以内



腕を前に突き出す
袖口のもどりが6.5cm 以内



ズボン かがんでみる
ウエストの上はしの落ちが7cm 以内
(ウエストは指を4本入れたゆるみの
ベルトなしズボン)



スカート 椅子に座ってみる
大腿部の上がり量が半分以上
(スカート丈は膝上5cm とする)



上記の基準に満たない場合は、パターン上に次のような原因があると考えられる。

上衣 袖山が高い
背巾不足・後ろ袖の運動量不足
ズボン 後ろ股ぐりの寸法(運動量)不足
スカート ヒップまわりと裾まわりの寸法不足

・サイズ ~実寸と服寸~

従業員の実寸値を、服寸に置き換える方法

サイズに表示された全ての部位が、人体にぴったり合うことは少ない。どこを重点的に合わせるべきかは、服の型体によって異なるが、原則としては最も身体の起伏の高い部分(上半身はバスト、下半身はヒップ)を合致させることがサイズ不適合を解消するのに役立つ。

服の形態	測る部位	測り方
スモック型 ジャンパー型	バスト	両腕を入れてバスト位置を一回り測る 一般的なゆとり量・20～24cm
スーツ型 ジャケット型 ワンピース型	バスト	片腕を入れてバスト位置を一回り測る 一般的なゆとり量・10～12cm
スカート スラックス	ウエスト	ウエストにメジャーを当て深呼吸を2～3回して測る
	ヒップ	片手、手のひらをヒップ脇にそえて一回りを測る 一般的なゆとり量・3～4cm

サイズ許容量の多いユニフォームの利点

美しいフォルムを多数の人に適合させ得るから、着用者の不満が少ない

サイズ数を少なくでき、管理が簡単

サイズ許容量・チェック表

	チェック項目	チェック方法	現象	判定
1	人体の起伏に対する許容	たたんでみる	全体に凹凸があり、たためない服 凹凸が無く、和服の様にたためる服	×
2	前面の高さに対する許容	バスト位置で 二つ折りにする	胸の部分がカーブになる 胸の部分が直線に折れる	×
3	腹部・腰部の高さに対する許容	ダーツの形	曲線にとってある 直線にとってある	×

・安全性

「ユニフォームが身体を守る」とは …… 着用者に疲労を与えない
外的な危険から身体を守る
保温と快適感を与える

疲労を与えないユニフォームの条件

被服気候[身体の表面(皮膚)と衣服の間の空気層の温度・湿度・気流]が
温度・31度～33度 湿度・40%～60% 気流・1～2m/h

衣服圧[衣服を着たために身体表面が受ける圧力]が
1平方 cm あたり30g 以下

衣服気候と衣服圧が適正を欠くと起きる現象

生理現象

- a. 血圧 10mmHg 以上上昇
- b. 脈拍 10%以上上昇
- c. 汗が流れる

自覚症状

- a. 足がだるい
- b. 生あくびが出る
- c. 倦怠感がある
- d. 頭痛がする
- e. 嘔吐を催す

一般的なユニフォームの重さ

ジャケット	750g～800g
シャツ	300g
ブルゾン	550g
ズボン(男)	500g
ズボン(女)	300g
スカート	300g